

土砂災害情報

Landslide disaster information

土石流灾害信息

토사 재해 정보

警戒区域と特別警戒区域

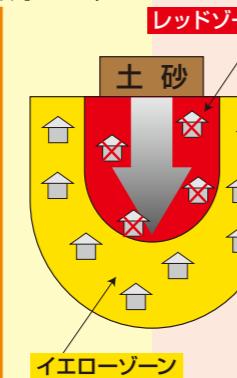
平成30年1月 東京都にて指定

土砂災害警戒区域(通称:イエローゾーン)

(規制事項等なし)

急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域。

- がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)
 - ・傾斜度が30度以上で高さが5m以上の区域
 - ・斜面下部より高さの2倍の距離の範囲(最大で50m)
 - ・斜面上部より10mの範囲
- 土石流 ※市内に無し
 - ・地盤勾配2度以上の土地の範囲
- 地すべり ※市内に無し
 - ・地すべりしている土地の長さと同じ範囲



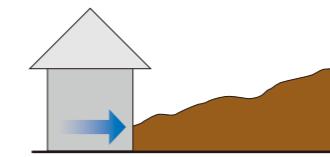
土砂災害特別警戒区域(通称:レッドゾーン)

レッドゾーン

土砂

イエローゾーン

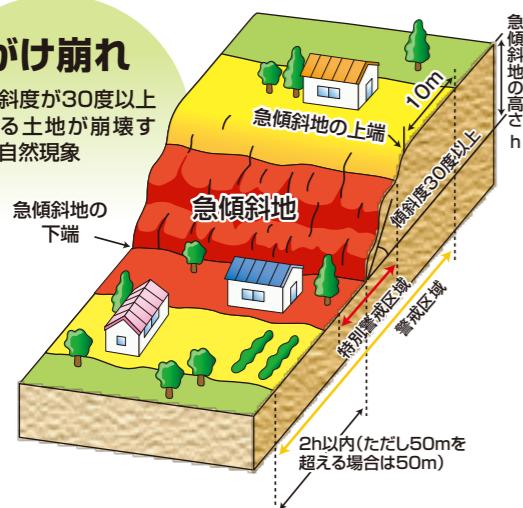
土砂災害警戒区域のうち、建築物に損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがある区域。



土砂等の力と建築物の耐力を算出し、比較判定により設定する。

がけ崩れ

*傾斜度が30度以上ある土地が崩壊する自然現象



建築物の構造規制

土石等が建築物に及ぼす力に対して、建築物の構造が安全なものとなるようにするために、居室を有する建築物については建築確認の制度が適用されます。

特定の開発行為に対する許可制

住宅地分譲や社会福祉施設等の要配慮者利用施設の建築の開発行為には、許可が必要となります。

建築物の移転等の勧告及び支援措置

急傾斜地の崩壊等が発生した場合にその住民の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれのある建築物の所有者等に対し、都知事が移転等の勧告をすることができます。移転等に対しては、支援措置があります。

土砂災害警戒情報とは

土砂災害警戒情報は、大雨警報(土砂災害)の発表後、命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となったときに、市長の避難勧告や住民の自主避難の判断を支援するよう、対象となる市を特定して警戒を呼びかける情報で、都道府県と気象庁が共同で発表しています。「土砂災害警戒情報が発表された場合に直ちに避難勧告等を発令すること」が基本とされています。

市から避難勧告が発令された場合には速やかに避難を開始してください。

国分寺市の発令基準(土砂災害)

避難勧告等の種類	発令の判断基準
避難準備・高齢者等避難開始	<ul style="list-style-type: none">・市内に土砂災害警戒情報が発表、または土砂災害警戒判定メッシュ情報の予想で土砂災害警戒情報発表の可能性が高まったとき・土砂災害警戒区域等の巡視により、前兆現象(湧水、地下水の濁り、量の変化)が発見されたとき
避難勧告	市内に土砂災害警戒情報が発表され、かつ土砂災害警戒区域等の巡視により、近隣で前兆現象(斜面崩壊、斜面のはらみ、擁壁・道路等にクラック発生)が発見されたとき
避難指示(緊急)	<ul style="list-style-type: none">・近隣で土砂災害が発生したとき・大雨特別警報が発令されたとき

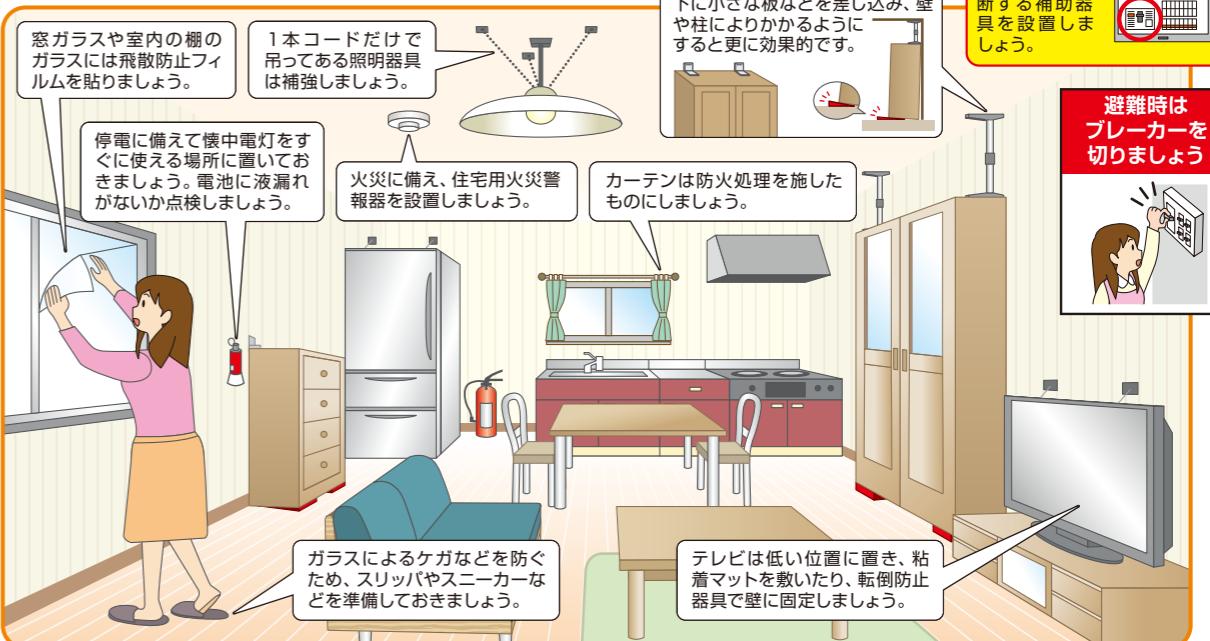
地震に備えて①

To be prepared for an earthquake

预防地震的対策

지진에 대비하자

屋内の対策



屋外の対策

- 事前に準備出来ているか、チェック ✓ しましょう。
- 屋根瓦やトタン屋根に破損等がないか確認しましょう。
 - アンテナはしっかりと固定しましょう。
 - ブロック塀にはしっかりした鉄筋を入れましょう。破損箇所がないか確認しましょう。
 - ベランダにある植木鉢や物干し竿など、落下する恐れがないか確認しましょう。
 - プロパンガスのボンベは転倒しないように鎖等で固定しましょう。

地震が起きた時の行動

外出先では…



落下物から持ち物等で頭を守りましょう。

●街頭にいるときは

- ・ビルや建物、ブロック塀、自動販売機等には近寄らないようにし、安全と思われる場所(空き地など)へ避難しましょう。

●スーパーなどの建物の中では

- ・ガラスや陳列棚から離れましょう。
- ・非常口へは走り寄らず、階段は駆け降りないようにしましょう。
- ・場内放送や係員の指示をよく聞き、それに従いましょう。



●駅にいるときは

- ・階段に走り寄ったり、線路に入らないようにしましょう。
- ・構内放送や係員の指示に従いましょう。
- ・電車内にいるときは、車外に勝手に出す乗務員の指示に従いましょう。

●車を運転しているときは

- ・徐々に速度を落とし、道の左端に止めましょう。
- ・緊急車両を優先させましょう。
- ・車を離れるときはキーを付けたままにし、ドアもロックしないようにしましょう。

家の中では…

- ・身の安全を確保
- ・すばやく火の始末
- ・戸を開けて出口を確保



- ・慌てて外に飛び出さない
- ・テレビやラジオ等で正確な情報を入手

